

くどう市長と語ろう！ 第3回ふれあいトーク



日 時 平成24年3月18日(土) 14:00~

場 所 富岡・はまなす地区活動拠点センター(富岡5丁目)

《第3回ふれあいトーク 開催結果》

●参加者数 15名

(男女別) 男性12名 女性3名

【参加者からの意見】

1. 防災に対する取組について
2. 東日本大震災のがれきの受入について
3. 市立稚内病院をはじめとした市内医療機関の充実について
4. 市民の意見を反映させる市政、市民と協働する市政について
5. 観光について
6. 除雪について
7. 使われていない土地の有効活用について
8. 酪農の振興について
9. 信号機の設置について

はじめに（市長あいさつ）

色々な集まりで、市民の皆さんとはお会いする機会があるが、なかなか色々なことをゆっくりお話しする機会がないため、このようなふれあいトークを開催している。皆さん、それぞれ日ごろ関心を持たれている話題があると思うが、ぜひこの機会に、皆さんのお話しをお聞きして、また私も話をしていきたい。

実は今日もここに来る前に、がれき処理の件でテレビのインタビューを受けて来た。今までも議会ではお話ししているが、直接私の考え方を皆さんにお話しする機会がなかったので、皆さんも心配されていると思うので、まずは皆さんにそのお話しをしたいと思います。

このたびの発言は、別に奇をてらって話をしたわけでもなく、また「放射能でも何でもここに持ってこい」と格好をつけた話をしたつもりもない。

かつて中央の大火の際、全焼した家屋には200～300万円の見舞金が払えるほど、全国から見舞金をいただいて驚いた。今回の震災で、そうしたことが私の脳裏に浮かんだ。

それとご承知のとおり、今回の津波でわがマチに住む方が一人亡くなった。昨年、お母様に弔慰金をお届けしたが、稚内に本籍を置く会社のサンマ船も被災した。出稼ぎや漁を求めてこのマチにやってきた東北出身の方が、わがマチの水産業の発展を支えてきた。わがマチと今回の被災地は決して無関係ではない。

実施には、被災地から最も遠いマチであり、高い輸送費をかけるより、もっと近い町で受けてくれれば、国全体で考えればもっと良いと思うが、今回の私の発言は、もし依頼があった時には、検討するし協力に前向きに取り組んで行くという意味だ。

しかし、この話をすると一方では放射能の危険性を心配する方がたくさんおり、私のところにも、そうした声がたくさん寄せられている。このまちが汚染されてもいいなどとは誰も言ってない。報道を通じ、私が一生懸命になり大賛成だと手を挙げてるように映るかもしれないが、私の思いはそういうことだ。私が勝手に決め、勝手にどこからか持ってくるということではなく、こういう条件でどうですかという要請を受けた時には、皆さんにどうですかと投げかけていきたい。

“10万トン受入表明”という数字が独り歩きしている。本市には、産業廃棄物の処分場があるが、担当課では「このまだ7万トンほど余裕があり、また、一般廃棄物処分場では、皆さんが分別に協力してくださったおかげで、当初の予定より3万トンほどごみが減っている」ことから、「合わせて10万トンの処理能力がある」というお話しをしたかもしれないが、これが“10万トン受入表明”という活字の見出しになっているようだ。

私のところに届くメール等には、今日にでもすぐ放射能を受入れるという極端な論調のものが多いが、決してそういうことではない。この先も皆さんの期待を裏切るような進め方は決してしない。

〈防災担当主幹から「現在の防災に対する取り組み」を説明〉

※ 市長との意見交換に先だって、市民の皆様の関心が高い「防災」について、現状の取組と、東日本大震災を受けて特に津波に重点を置いた取組について説明させていただきました。

- ◇ 現在、市役所内に「防災プロジェクトチーム」を立ち上げ、災害時の即応体制ということで庁内を含めた体制づくりについて検討している。また、防災意識の醸成・避難体制については、職員や地域住民、さらには学校教職員も含めた防災意識の醸成を図っている。
- ◇ また、防災アドバイザーとして北海道防災環境機構という専門家の集まりをお願いして、避難場所、避難施設、避難経路、備蓄体制について、検証を行っている。
- ◇ 北海道が公表した津波ハザードマップを含めた「防災ガイドマップ」を作成中で、4月早々に皆さんのお手元にお届けできる予定。
- ◇ 今後の取組については、24年度以降は各地域で避難の手助けが必要な要援護者を含む地域毎の避難計画作成を、地域の方々、自主防災組織の皆さんと一緒に取り組んでいくことを検討している。
- ◇ それを進める中で、地域によっては、例えば富岡と恵比須などでは必要な対策等も違うので、地域毎に避難経路等を検討する。その中で避難所等が海岸線に近いということも含め、民間企業にも相談しながら避難ビルの指定等も検討していきたいと考えている。
- ◇ 沿岸部の標高表示については、観光客への周知も含め、まずは公共施設に標高表示板を設置していく。
- ◇ 災害時の情報伝達手段として、現在は、市の消防からFMコミュニティラジオを活用した「緊急割込み放送」を実施しているが、緊急告知ラジオの導入についても検討を行っている。この緊急告知ラジオは、電源をオフにしても、こちらか信号を送ることによりラジオが起動され、緊急放送を聞けるというもの。平成24年度からはじめ、全世帯への導入を検討している。
- ◇ 先ほど申し上げた地域の避難計画、要援護者への支援をとりまとめ、現在の稚内市防災計画を見直していく。

1. 防災に対する取り組みについて

◆参加者からの意見等

- 防災ラジオは無料で配布されるのか。また、時期はいつ頃になるのか。

◆市長の発言

- FMわっぴーが出力を強化して、より遠くに電波を飛ばせるようになった。6月の補正予算になると思うが、本市としてはまず親局を整備する。電波を増力しても東浦あたりに中継局を建てないと、残念ながら隅々まで届かない。まずは、市内全域を網羅する体制を作る。
- その上でラジオについては、まず公共施設や学校などを優先して整備し、3年程度かけて、全世帯に配布する方向で検討を進めている。
- 無料にするか負担金をいただくのかは、もう少し時間をかけて検討していく。良いことだけを言っても、財源には限りがある。次の世代にもわたって恩恵を受けていただくための仕組みを考えていきたい。

■ 検討状況など【担当 … 総務部・防災安全課】

この「緊急告知ラジオ等整備事業」は、平成24年度放送設備の整備と公共施設及び全町内会長宅等へ240台のラジオを設置するもので、25年度は市内全世帯へ無償配布し、26年度に難聴地域解消の為に放送設備の3ヶ年計画で進める予定です。24年6月の議会で、放送に係る設備と市内全戸へのラジオ（無償）配布の予算が認められ、業者選定など準備を進めております。

2. 東日本大震災のがれきの受入について

◆参加者からの意見等

- なぜ、現地で灰にする等の処理をしないのだろうか。この1年間、なぜ、処理が進まなかったのかと疑問を感じている。
- 新聞を見ると100件もの反対意見が寄せられているようだが、反対する人は物申したくて言うのだと思う。賛成の人はわざわざ言わない。だから圧倒的に反対が多いというわけではないと思う。
- 何とかして被災地の助けになりたいという思いがあるし、住民のコンセンサスも含めて市長がしっかりやってくれると思っているので、反対する必要はないと思う。
- 良い決断だと思っていた。ただ放射能に関しては、政府や東京電力の人災という点で難しい面があると思う。決断としては、今回は英断だ。

◆市長の発言

- 被災地から稚内市までは距離もあるし、雇用の問題等も有るので現地で処理するのが一番良いという事は間違いない。自分達で処理したが、宮城が10年分、岩手が19年分になると聞いている。それでそのうち何+%かを広域処理したい、つまり、自分達で色々なことに取り組んで、それでも処理しきれない部分について協力して欲しいという話だと思っている。
- 市民の皆様の期待を裏切る様なやり方はとらない、一朝一夕に解決する問題ではないがしっかり取り組んでいきたい。
- この街が放射能で汚染されても良いなどと言っているわけでは決してない。実際に受け入れる際には、受け入れ基準の設定など、万全の対策をとる必要があると心得ている。

※ その他、市長の発言は、はじめに（2ページ市長あいさつ）をご覧ください。

※ 「その後の検討状況等」は特になし

3. 市立稚内病院をはじめとした市内医療機関の充実について

◆参加者からの意見等

- 市立病院には、循環器の医者が常駐していないため、心臓病を抱える妻のため、都市部へ移り住むことを検討せざるを得ない状況にある。医者を配置できないのであれば、インターネット等を利用した画像や検査データの送受信システムを整備し、都市部の医療機関と提携して、稚内に居ながらにして十分な診療を受けられる体制が作れないか。
- 市立稚内病院は管内住民の命を一手に預かる拠点なのだから、優秀な医師を呼ぶために、周辺の町村と連携して圏域として取組を強化できないか。
- 泌尿器科にかかった時、待合室（廊下）で待っていたら、受付の看護師に「今日は何で来たんですか」と聞かれて、皆に聞こえるのでおどおどしていた人を見かけた。特に泌尿器科や婦人科は人前では言いにくいこともある。それを「はっきり答えなさい」という言われ方をするのはどうかと思う。

◆市長の発言

- 循環器は、今は札幌の病院にお願いして、週に2～3日医師を派遣してもらっている。私も市病院長も、何とかかつての形に戻したいと、色々なところをお願いをしているが、循環器内科というものは、2人以上のチーム医療で動かなければ効果が出にくく、そうすると非常に厳しいと言われている。
- 現状、市立病院と離島をインターネットで繋ぎ、診断等の支援をしている。設備は高額だが、地域の方々の命を守らなければならないと思う。即答できないが、院長にも、そういう意見があるということは伝えていきたい。
- 隣町と一緒に宗谷地域のセンター病院（市病）を充実することは間違いなく重要。ただ、我々が市病の医師や開業医が増えて欲しいと願うのと同様に、どこの町も自分達のマチに医師がいて欲しいと願っている。現実には、近隣から多くの患者を受け入れる管内センター病院であっても、財政負担も含め全て稚内市が責任を負っているという状態。管内全体で取り組んではと先方からも言われるが、思いを一つに取り組むことには難しさがある。
- もう一つ言われるのは、医者だって人の子だということ。医局の事情もあるが、それでも「稚内に住んで医療に携わりたい」と思わせる取組がないかということ。例えば医師の悩みにボランティアやNPOなどが関わり解決に向けた取組を行っている地域もある。現実、医師に対して良いという評価の方が必ずしも多く聞こえて来ない。そこはまちぐるみの取組が必要なのかと思う。それが結果として医療体制の充実につながっていくかもしれない。
- 地域の医療の充実を考える時、何でもかんでも市立病院に求めるわけにはいかない。時間がかかるし難しい話ではあるが、開業医の誘致など地域の医療機関全体の充実を考えなければならない。
- 今年は看護師が増え、今まで患者10人に1人での看護だったものが、7人に1人となり強化された。医師はともかく看護師が増えていけば皆さんの不満を解消できる体制づくりにつながると思う。いずれにしても、いただいた声は病院にも伝える。
※「検討状況等」は次ページ

■ 検討状況など 【担当…市立稚内病院庶務課】

- 現在の循環器科の診療は、札幌市内の病院から週2日、その後、その病院の働きかけもあって、今年5月には別の病院よりさらに週1日医師の派遣を受けて、週3日の診療を行っております。
- 今後は、上記2病院との連携強化により早期の医師常勤体制構築を模索しております。
- 現在、名寄市立総合病院を中心に道の補助事業を利用しての、「道北北部連携ネットワークシステム整備事業」の実施を検討しております。この事業は、専用回線を利用し画像や検査データの共有等により、地域医療の充実を図るものです。
- 現状では、医師派遣について、他町と連携した働きかけを行っていません。
- 職員の接遇の研修については、非常勤職員を含めて行っておりますが、様々なご意見も頂いております。今後、更なるサービスの向上を図るため研修を行っていきます。

4. 市民の意見を反映させる市政、市民と協働する市政について

◆参加者からの意見等

- 市役所に行っても、「それはうちの課ではありません」と言われ、まだタライ回し的なことがある。市民の声が素直に通るシステムにならないか。また、市長に直接意見を述べる仕組みがあるかどうかも伺いたい。
(別の参加者から「個人的には、窓口対応を始めとして市役所の雰囲気はここ数年でずっと良くなっていると感じている。」という意見もあり)
- 色々な分野で先進都市と言われる自治体に半年なり1年なり職員を派遣するような取組が必要ではないか。良いものを学び、戻ってからその部署を変えていくことができるのではないか。
- 転勤族で稚内に来て2年になるが、ヨソモノの感覚からすると、稚内市は、恵まれた環境や潜在的なポテンシャルを活かしきれていないと感じることがある。旗振り役は市職員であっても、観光・食の推進・文化など、あらゆる分野で市民が参画していくことによって、より良いまちづくりが可能になると考える。市民に委ねることで柔軟な発想が生まれてくる。
- 文化も、役所や企業が作るものでなく、私たち市民が作ってこそその文化だと思う。映画で言えば、監督や出演者は一般市民でもしかける方は市役所職員でもいいと思う。文化センターのような立派なハードもあるのだから、ソフトは、国や道などの関係機関から予算を上手く持ってきて、仕掛けることが必要なのではないか。

◆市長の発言

- 市民の皆さんの意見を聞くための部署として市民生活課を設置している(4月の機構改革で市民協働課に変更)。それ以外の部署でも、意見をいただくと、私に伝わる様になっている。時間さえ合えば、直接会いに来ていただいてもお断りすることはない。市民の声がきちんと行政に反映されない、職員の対応が今一つだという批判については、真摯に受け止め、当然、資質の向上に努めていかなければならない。これからも色々な意見をいただきたい。
- 現在も、北海道や後期高齢者医療連合、また南極など、様々な目的で職員を派遣していろいろな経験をさせているし、職員には他の自治体の取組等には常にアンテナを高く張るようになっていっている。皆さんにご指摘されるようではまだまだ取組が足りないのかもしれないが、今後も徹底したい。
- ただ、稚内市には“こども課”という課がある。行政は縦割りだと言われる中で、こどもに関する仕事を全て1つの課に集約するというのは、先進的な取組だった。エネルギーもそうで、他所の自治体から「教えて欲しい」と言われる取組もたくさんあり、必ずしも遅れているばかりではないと思っている。そうした特長は伸ばしていきたい。
- おっしゃるとおり、市職員(特に若い世代)が上手に旗振り役となって、市民の皆様と一緒に盛り上げていてもらいたいと思っている。職員自身も御指摘いただいた様な問題意識は各々持って日々仕事をしているので、これからはあらゆる場面でアドバイスいただき、市役所の組織が少しでも良い方向に変わるよう導いていただきたい。
※「検討状況等」は次ページ

■ 検討状況など 【担当…政策調整部・市民協働課】

本年 4 月の機構改革により、新たに「市民協働課」が設置されました。この部署は市に対する市民や地域の声や意見の窓口をひとつにし、迅速に対応することを心がけております。また、市民の皆さんと市政一般に関しての意見交換を行う「ふれあいトーク」や団体・グループと特定の分野に関して意見交換を行う「おでかけミーティング」を通して、数多くの市民の皆さんとの意見交換を積極的に行っています。

その他にも電話、メール等での意見も受けており、市役所 1 階には「ご意見箱」を設置して、市民の皆さんからの意見・要望を受け付けておりますので、活用していただきたいと思っております。

現在、本市の各地域では、少子高齢化の進展により、マンパワーが不足して地域の行事の開催に支障をきたしているとの問題があり、市職員が数多く、こうした地域活動に対して協力できる体制づくりを検討しています。また、文化・スポーツに対しても同様であり、早急に整理し、協力体制を作っていきたいと考えております。

5. 観光について

◆参加者からの意見等

- 現在の観光の趨勢である滞在型とか、参加体験型とか、食の探求型とか、B級グルメとかあるが、そういう形になっているかという点必ずしもなっていない。個人観光客、団体、また海外からの個人観光客への対応も不十分でもったいない。
- 食の探求でも、まだまだ発展の余地は残っている。一般市民のオオナゴに対する認識は、まだ決して高いと言えない。「勇知いも」も非常に美味しい。生産量が少ないというが、それは逆に魅力になると思う。勇知いもを食べられるレストランとか居酒屋は旅行者の気持ちをくすぐるのではないか。
- 観光客の中には、地元の人が食べている料理を食べたいという人も少なくない。都会では食べられないが稚内でなら食べられるという料理(郷土料理)だ。例えばタコカレー、ホタテカレー、ホッキカレーなどは地元でとれる食材だし、レストランではもちろん、軽食を出している店なら十分に提供できる。それらを「3大カレー」として売り出すなど。鍋バトルなどのイベントの料理もその時だけでなく、通年で、市内のどの店でも食べられるようにするなどの取組も必要ではないか。
- 観光を生業としている人達、市内の飲食店なども、もう少し観光客が何を求めてここに来るのかということのをわきまえて、考え直さなければならない時期に来ていると感じる。今のままだと「あそこは観光地だから高い」というイメージしかない。
- オオナゴは、ホッケのような大きな魚ではなく、手間もかかり、鮮度が落ちやすいなど業者泣かせだ。これまでは冷凍して、養殖ハマチの餌として四国や九州に出されていたが、こういう大きなオオナゴは、稚内でしか獲れない。味は美味しいのだから、市がどうこうではなく、業者が商売として考えていかなければ進まないだろう。
- 釣りで稚内を訪れる人は想像以上に多い。観光への活用を提案したい。
 - ・ 釣り人達の為に、漁港にトイレを整備
 - ・ サケ釣りでツアーも誘致できるのではないか
 - ・ 全道規模の釣り大会開催
 - ・ 釣りが禁止されている場所(末広埠頭など)を年1回でも開放する
 - ・ 市や観光協会のホームページで釣り情報を掲載する
- 抜海のアザラシを目当てに来る観光客は多いが、漁業被害等も看過できない問題である。観光として考えると利益はどうなのか。観察所は有料なのか、無料なのか。

◆市長の発言

- 滞在型だ、探求型だ、あるいは個人観光客にシフトしているのだからそれに対応するようにだとか、また、外国人対策などは行政的な課題として取り組まなければならないもので、市でも観光振興計画を作り取り組んでいる。
- 外国人観光客については、昨年、利尻・礼文の町長達と一緒に、香港や台湾などを訪問した際、道北はなかなか知られておらず、ビデオ等で紹介すると素晴らしいと感動してくれるが、残念ながら定期便がない。また、映画『北のカナリアたち』を紹介して過酷な冬のシーンが見ものになると話をして、利尻・礼文へのフェリーも満足に動かないなど、受入のためにやらなければならないことはたくさんあるので、引き続き取り組んで行く。
- 水産物では、かつて食べなかったものが、やがて食用になるという話は、これまでもあった。オオナゴも、食卓に上るものではなかった。観光客に勧めるのに、自分達が食べないというわけにはいかない。時間をかけて取組んでいきたい。
- 観光客が“食べたいもの”と我々が思い浮かべる“食べさせたいもの”が一致しているのかどうかという事については、そろそろ軌道修正を含めて考えなければならない。市はもちろんだか、それに携わっている人達にもっと考えてもらいたいと思っている。
- 釣りの為に遠くから来てくれる人が多いという事は認識しており、ありがたいと思っているし、観光への活用も考える価値はある。
 - ・漁港はまずは生産の場であるので、釣りを前提にして考えるわけにはいかない。以前、抜海のトイレでは、サケをひっかけでどんどん揚げて、トイレで腹を裂き、中だけとって身を投げていくマナーの悪い釣り客がいて、悩まされ、朝早くから総出で取り締まりをやったこともある。漁民が必要だからということで維持管理費をかけてトイレを設置しているが、そういう意味でトイレの設置等については簡単でなく、漁業者との十分な協議が必須である。
 - ・国際条約で釣りが禁止されている場所を開放するのは、どんなに体制を万全に整えても何かあった時のことを考えると難しい。
 - ・ホームページについても、載せ方によっては可能な部分もあると思うが、「きのう何匹釣りました」というところまでは、行政では対応しづらい部分があると感じる。釣り場や釣り情報をホームページで情報発信というの、もともとは釣り具屋さんなどで釣り新聞等に載せていた。むしろ愛好者の方がまとめたものを、掲載して下さいという話であれば、検討できるかもしれない。
- アザラシとの共生については、ここ数年来の難しい問題であり、漁業者の皆さんとも協議しを続けている。増え過ぎず、特定の時期に適度に居てくれて、漁業者の皆さんにも迷惑をかけないでくれれば言うことは無いが、それは虫のいい話。頭を悩ませている。観察所は無料で開放している。

※「その後の検討状況等」は特になし

6. 除雪について

◆参加者からの意見等

- 独居老人、生活保護世帯、年金生活の高齢者宅の雪下ろしについて、困難な部分が生じている。
- 実際に業者に頼むとなれば、屋根の雪下ろしだけでも 3 万円くらいは取られる。年金生活の中では難しい。何でも市任せと言う訳にはいかないというのはわかっており、町内会でも考えていかなければならない問題ではあるが、市としてはどのように考えているのか伺いたい。
- 今恵町内会で、地域に住んでおられる自衛隊さんに協力してもらって除雪困難世帯の雪下ろしをしているという話を伺った。そういった若い方がいる地域では可能かもしれないが、高齢化も進んでおり、非常に難しい。
- 今年のように雪が多い時には、自衛隊の皆さんに除雪をお願いできないか。そうすることにより、市民の自衛隊アレルギーも払しょくされ、より歓迎できるのではないか。

◆市長の発言

- 札幌で発生した孤独死の件を受けて、高齢者や障がいを持つ方の安否確認を行った。
- 今年は雪が多かったことも有り、自力で除雪が困難で、危険な状態になっている個所の除雪、所有者が不明な廃屋などについて、生活福祉部を中心に、危険なところは専門知識を持つ消防職員が除雪をするということで取り組んだ。
- かつてから、除雪が困難な世帯の問題に関しては社会福祉協議会だけで取り組むことではないと考えており、次の冬に向けてまた検討させたい。とにかくこのまま放置できる問題ではないと考えている。
- 今恵町内会の場合は、自衛隊の方々が多く住まわれている地域で、業務としてではなく、住んでいる地域へのボランティアという意味での活動だと思われる。地域貢献が大切だというお気持ちはわかるが、正式に出動を依頼するとなると、話は全く違う。

※「検討状況等」は次ページ

■ 検討状況など 【担当 … 生活福祉部・社会福祉課】

- 昨年度冬季に市で実施した高齢者や障がいをもつ方の敷地内の積雪状態や安否確認を継続して行います。
- これまでと同様に広報紙や社協だよりにおいて、社会福祉協議会の除雪サービス等、除雪に関することの周知を積極的行います。
- 市民一人ひとりが地域福祉活動を積極的に行えるよう地域団体やボランティア等の実態把握に努め、団体間が連携・協働できる組織づくりを進めます。
- 行政等による除排雪や除雪サービスだけでは対応できない部分があり、親子や兄弟、親戚、近所等の小規模単位のコミュニティを強化する必要があります。この冬を迎えるにあたり除雪が困難な世帯への対応について、社会福祉協議会との協議・検討を行います。

7. 使われていない土地の有効活用について

◆参加者からの意見等

○萩が丘浄水場前のグラウンドは、かつては子ども達の遊び場としてよく利用されていたが、少子・高齢化に伴って、あまり利用されていないように見える。例えばパークゴルフの練習ができる様な、有効な整備は出来ないか。

◆市長の発言

○ かつては、私もよく野球などをした経験がある。しかし、近年は厚生労働省からの通達で「浄水場の様な施設の周辺は、不特定多数の人間が集まるような整備をしてはならない」とされており、ご指摘の箇所については難しいと考えるのでご理解願います。

○ 使われていない土地の有効な活用方法や、地域の方が有効な使い方をできるスペースの在り方自体はこれからも考えていくべき問題であると認識している。

※「その後の検討状況等」は特になし

8. 酪農の振興について

◆参加者からの意見等

- 生乳の販路拡大に取り組むべきである。
- 他所の地域でも取り組みが見られるが、家畜のふん尿バイオマスへの活用を進めるべきである。
- 稚内に交通刑務所を誘致し、酪農のヘルパーとして働いてもらうことは、できないか。

◆市長の発言

- そういう思いで取り組みをしているところではあるが、稚内牛乳も赤字が続いており非常に厳しい。稚内ではバターや脱脂粉乳などの加工用として出荷されるという体制が何十年と続いて来た。これからもいろいろと考えていく必要があるだろう。
- バイオマスについては、稚内では農家が1軒1軒離れており、規模もそれほど大きくないので出るふん尿の量の問題や、整備に係るコスト等を考えた時に、残念ながら農家の皆さんが導入に踏み切れるような状況にあるとは言い難い。
- 新エネルギーの固定買取制度が出来ることによって、今後の状況が大きく変わる可能性はあるので、引き続き可能性は検討したい。
- 刑務所の誘致は、以前にも市として取り組んだことのある問題で、メリットもデメリットも慎重に考えなければならない。ご指摘の様な取組につながるかどうかは定かではない。

■ 検討状況など 【担当…建設産業部・農政課】

- 地元で生産している稚内牛乳については、製造施設の生産容量が小さいことや牛乳の風味を最大限生かすために低温殺菌法を用いているため、賞味期限が短くインターネット等による販路拡大が非常に難しい現状にあります。一方、稚内牛乳を使用したソフトクリームやアイスクリーム等の販売は年々伸びており、今後、利礼・サハリン航路の船内販売、スポーツ合宿、社会福祉施設のイベント等、販売先の拡大と新製品の開発等により消費の拡大が見込まれるところです。
- バイオマスの活用については、粗飼料主体の飼養を行っている稚内市の酪農では、農家から排出されるふん尿は、全量が堆肥化され農地に還元しております。このため、ふん尿を利用してのバイオマスについては、発生量や整備に係るコスト等、農家の理解を得られる段階にはないと考えています。

9. 信号機の設置について

◆参加者からの意見等

- むかし天北線の線路があった部分が市道に整備されたが、富岡の東入口から降りたところに、信号の無い危険な交差点がある。市として信号機を設置する予定があるか確認したい。出勤時間帯と夕方が特に交通量が多く危険な状態である。高齢者も多い地域なので要望として発言させていただく。
- その交差点は、確かに交通量が多く、都市計画がどのようになっているのかわからないが、できればもう少し声問寄りに言った、富岡から下がる一番奥のところに道路をつけていただけると一番有り難い。

◆市長の発言

- おそらくそこに設置するとほかの信号機との距離が近すぎるという理由があると思われる。詳細を確認させてほしい。

■ 検討状況など 【担当課 … 建設産業部・土木課】

信号機の設置に関しましては、公安委員会（警察署）の判断になるので、市において判断することはできません。お話のありました該当箇所につきましては、警察署に検討いただくようお願いしております。